

Day

2

タイトル

5. アフリカにおける廃棄物管理に関する事例及び知見の共有
(1) モロッコにおける廃棄物管理分野での官民連携

発表者

モロッコ収集清掃協会 会長 Abdelouafi Said

発表者から以下のとおり、説明があった。

今日の自治体にとって、ごみ収集および道路清掃は大きな懸念事項となっている。この分野の現況を理解するには、歴史的な背景の理解が必要である。廃棄物処分は、環境保護分野における自治体のメイン業務であり、公共サービスとして位置づけられている。しかしながら、この自治体を主とする古い体制では、都市化の問題に対処しながら都市の魅力を向上させるという課題に取り組むことが難しくなっている。

自治体直営による収集と清掃サービスは、不十分なインフラと機材、メンテナンス不足による低稼働率、必要な資格を有したスタッフの不足、資金欠如、などといった問題を抱えていた。

要約

このような状況から、90年代終わりには、これらサービスを民間セクターに委託するアイデアが出てきた。初期においては、法的枠組みや戦略的ビジョンがないまま契約が締結されたり、廃棄物処理の全体プロセスに係る視点が欠如していたりして、収集された廃棄物の殆どは処分場に投棄されていた。当時は、都市からごみを取り除くことが優先課題であったためである。このような時代の後、現在までに152都市で20の企業と109の契約が締結され、現在の年間利益は23.4億ディルハムとなっている。

制度改革の一環として、AMCNが設立された。AMCNの目的は、メンバー会社の権利の保護とコミュニティへの貢献である。モロッコは、現在都市清掃と廃棄物管理のリーダー的存在となっており、南南協力の枠組みの中、ノウハウの提供も行っている。モロッコの企業は、アフリカの多くの首都で、廃棄物管理を担っている。